

大学等名 国立大学法人 鹿屋体育大学
 テーマ名 テーマ：地域活性化への貢献
 取組名称 学生のスポーツボランティア活動の支援事業
 取組学部等 全学
 取組担当者 副学長 松下雅雄
 取組期間 平成16年度～平成18年度
 Webサイト <http://www.nifs-k.ac.jp/sv/>

取組の概要

本取組は、子どもの体力低下、運動部離れ、スポーツ指導者の不足、さらに中・高齢者の運動不足の解消や健康づくりのために、地元教育委員会とその関連団体である総合型地域スポーツクラブと連携し、学生ボランティアが地域の学校やスポーツ団体等においてスポーツ指導あるいはその指導補助を安全で、円滑にできるように支援するものである。これにより、学生は、正課外の時間にも自らが主体的に自己のスポーツの知識や技能、指導力等を社会でどう活かせばよいか、また開発・改善していけばよいかを学ぶ実践的な教育の機会を得ることになる。

そのために、学内に学生スポーツボランティア支援室を開設し、学生のスポーツボランティアの登録と派遣調整、事前研修、指導相談、教材開発の支援、事故・保険相談などを行う。特に、事前研修、指導相談、教材開発の支援、事故・保険相談では、学内の教職員の協力を得て、学生が積極的に相談できる体制の整備を行う。



実施の経緯・過程

本取組では、当初より補助事業後も継続することを鑑みて、取組の統括・運営体として学長の下に「学生スポーツボランティア支援室」（以後、支援室）を設置し、継続的に実施できる体制を整備した。なお、総括的な事務処理は、学生の課外活動について所管する「学生サービス課」で対応した。また、地域における学生のスポーツボランティア活動を円滑に実施するために、地域と大学の密接な連携・相互理解を得るために、年2回の「連絡協議会」を実施した。

学生のスポーツボランティア活動への支援は、主に以下の2つを行った。

(1) 派遣支援：スポーツボランティアを希望する学生へはハラスメント防止、安全指導等の事前研修会（全体、個別）を開催した。その際の研修テキストとして「学生スポーツボランティアガイドブック」を作成した(右図)。また、支援室が派遣に先立ち学生と派遣先との事前打ち合わせのコーディネート等も行った。そして、スポーツ事故等の不測の事態に対して備



えるために指導者保険の加入指導（250円/単年度）も行った。また、事前研修会や学生の自主研修の”場”として「スポーツボランティア支援室」や「資料コーナー」も学内に設置した。さらに、指導の充実を図るために、ビデオカメラ、トレーニング備品（ラダー、縄跳び、HRモニター、ミコン等）、熱中症計なども貸し出し物品として準備した。

(2) 学習支援：学生自身が実践的指導力の改善を評価できるように、実践的指導力の構造と内容を整理した(右図)。そして、定期的に学生自身の自己評価と派遣先等から他者評価を受け、それを総合的に分析し、学生へフィードバックし、指導力改善の学習サイクルの支援を行った。

平成16年度は、本取組実現へ向けての準備年として位置づけ、支援準備室の開設や学生の事前指導の内容、関係団体との連絡調整を行った。

平成17年度は、支援室を開設し、パイロットスタディ的に少人数を対象に学生のスポーツボランティア支援を実施し、運営に関する問題点や改善策を検討した。特にこの取組により得られる学生の教育効果を評価する「学生の指導評価表」の運用について検討した。

平成18年度は、全学的に学生スポーツボランティア支援事業を開始した。また、地域に向けたスポーツボランティア・フォーラムも10月に実施した(参加者170名)。



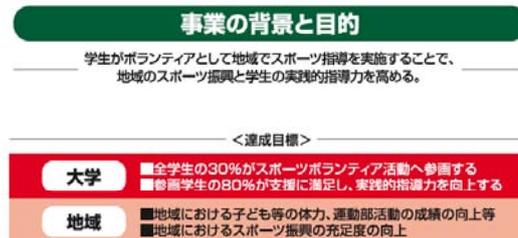
目的に対する成果、人材養成面での達成度

本取組は、地域におけるスポーツや健康づくりの指導者不足を補うとともに、地域における学生のスポーツボランティア活動の教育効果に着目し、学生のスポーツや武道の「実践的な指導力」を高めることに寄与するような「学習型のボランティア活動」となるように支援を進めることを目指した。そのようなことから学生のスポーツボランティアへの参画人数の目標を全学部生の30%とし、その80%が支援に満足し、実践的指導力を高めることとした。

しかし、現代GP最終年である18年度の登録学生は64人(全学部生の約10%)で、指導を行った学生は31人と、全学部生の約5%に留まった。地域に派遣した団体数は、9団体であった。

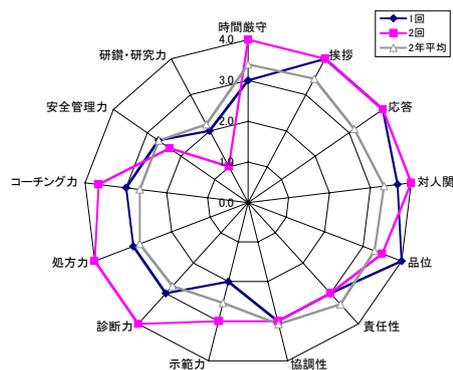
少数ながらもスポーツボランティアを行った学生は充実した活動を行うことができ、各種支援が実践的指導力の改善に役立つと語った。「学習支援」として行った実践的指導力の自己評価(C級レベル)では、右図のように活動前後で大きく改善傾向を示す学生もいた(逆に、より厳しい自己評価を行う学生も見受けられた)。

また、活動を行う学生同士で定期的な研究会を実施し、スポーツ指導現場で直面する問題等について情報交換する活動も行われるようになった。今後は、学生の自主的な研修活動にも大学として連携・支援しながら、より質の高い教育効果が得られるようにと考えている。



平成17・18年度の実施状況

内訳/年度	平成17年度	平成18年度
研修受講者(人)	57	49
登録者(人)	46	64
派遣・実施者(人)	15	31
実施割合(%)	32.6	48.4



なお、スポーツボランティア活動への参画人数の拡大は、本学のサークル加入率が 90%を超えていることから、サークル団体が独自に行っているスポーツボランティア活動も含めて支援する体制について検討することとしている。

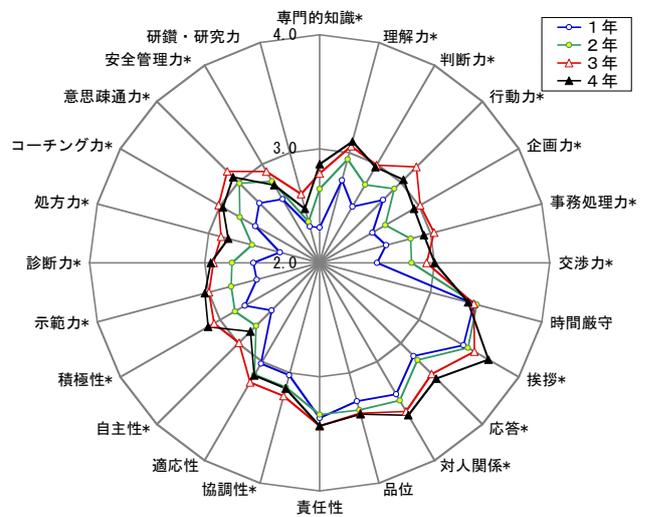
自大学の教育改革への影響、他大学等への波及効果、地域社会等への波及効果

本事業では、単にスポーツボランティアに関わる学生のスポーツ等の実践的指導力の評価を行うことだけでなく、全学的にスポーツ等の「実践的指導力とは、どのようなものか」ということについても整理を図った。そのために教員へのアンケート調査も実施し、目指す実践的指導力について全学的なコンセンサスを得るようにした。

その結果、本要素は平成 19 年度のカリキュラム改訂における「アスリート・コーチ系の育てる人材像」としても認められ、名実ともに「全学的なコンセンサス」を得られた教育目標であり、評価内容となった。

さらに、全学的にこれらの実践的指導力に関する学生の「自己評価」アンケートを実施し、学年進行にともなう実践的指導力がどのように評価されているのかについても調査した（回答率、全学部生の 60.9%）。その結果、「優れてできる」というレベル（4.0）までには至らないものの、実践的指導力の核をなす「示範力」「診断力」「処方力」「コーチング力」などについては上級学年ほど高レベルに達していることが明らかとなった（右図）。

今後は、教員等による他者評価の実施や学生自身による自己評価を継続して実施し、教育目標の質を高めていくことが求められている。



学生等の評価

本取組の代表的な支援である「実践的指導力に関する評価（システム）」について学生は、約 90%の学生が肯定的に捉えていた。また、スポーツ事故に対する保険加入への指導、事前研修等の派遣支援に対しても同様に肯定的に捉えていた。

一方、実際にスポーツボランティア活動を実施している学生からも、座談会（平成 19 年 2 月実施、参加学生 13 人、右下写真）を通じて、調査結果と同様な支援に対する肯定的な評価が得られた。また、スポーツボランティア活動（指導体験）を通じて自らの指導力が高まっていくことにも高い満足感を得ていた。例えば、保護者から選手起用、個人練習の支援、声かけに対するクレームへの対処、指導されてきたことしか指導できなかった自分が試行錯誤しながらチームの能力・コンセプトにあった指導や子どものレベル（成長）にあわせた声のかけ方や指導内容、動きやチームの能力を見抜くセンスなどが身につけていることが報告された。さらに、19 年度以降の学生スポーツボランティア支援についても学生たちは期待しており、積極的な意見や要望がされた。例えば、継続登録の再研修の充実、学生の要望の吸い上げの充実、学

Q:あなたは、派遣先から自分自身の指導力等についての情報がフィードバックされ、指導力等を改善できるシステムについてどう思いますか？

	度数(人)	有効比率(%)
1 よいと思う	341	86.1
2 必要ないと思	9	2.3
3 わからない	45	11.4
4 その他	1	0.3
合計	396	100.0



生同士の連携の充実、支援室（大学）による実践的指導力評価の実施などであった。

学外からの評価

本取組で学生ボランティアが派遣された団体等からは学生の実践的指導力に対する高い評価（他者評価）が得られている。同時に、指導に対する高い満足も得られている。ある派遣先では、大幅に戦績や競技力が高まり、さらに密接な指導が求められてきている。

一方、本取組は「“学生”のためのスポーツボランティア活動の支援」にとどまるだけでなく、地域におけるスポーツ活動の活性化と振興を図るために、不可欠な「“一般”のボランティア指導者の確保（育成）と充実」についても「スポーツボランティア・フォーラム」という形で地域への情報発信を行った（参加者：170名）。その結果、本取組に対する理解、さらには地域における総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツボランティア支援方策の応用などについても期待が高まっている。



取組支援期間終了後の展開

本取組は、当初より現代GP終了後（平成19年度以降）も継続することを鑑みて、事業の統括・運営体として学長の下に「学生スポーツボランティア支援室」を設置し、継続的に実施できる体制を整備し、現在も継続している。今年度9/1現在で活動している学生は36人と昨年度（31人）より増えている。また、活動学生らにより、広報用ポスターも作成されている（右写真）。

なお、今年度の学生スポーツボランティア活動の支援事業の運営費は”学長裁量経費”で確保している。

今後の事業の課題としては以下を設定し、順次解決を目指す予定である。

- ・本学教員による「実践的指導力」の他者評価の実施とフォローアップの充実。
- ・継続的な事業実施に向けた支援室のスリム化と参加学生との連携。
- ・支援事業の予算化と専任事務職員の確保。
- ・サークル団体等が取り組んでいる組織型のボランティア活動との連携。
- ・学生の「実践的指導力」を認証する制度の全学的な整備の検討。
- ・地域における”一般”のスポーツボランティア養成への支援と連携。



本件お問合せ先 学生サービス課 スポーツ係

TEL: 0994-46-4890

FAX: 0994-46-2516